

氏 名	小 平 由美子
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 1 7 号
学位授与年月日	平成 2 1 年 3 月 2 5 日
学位論文題目	母親のサポート認知及び内的ワーキングモデルが育 児肯定感へ与える影響

論文内容要旨

※整理番号	121	(ふりがな) 氏名	こひら ゆみこ 小平 由美子
修士論文題目	母親のサポート認知及び内的ワーキングモデルが育児肯定感へ与える影響		
<p>【研究の目的】 本研究の目的は、産後1ヶ月の母親の妊娠・出産・産褥期のソーシャルサポートに対するサポート認知を通して、母親の内的ワーキングモデル (Internal Working Models; 以下 IWM と略す) の再構築や育児の肯定的感情の影響を明らかにすることである。</p> <p>【方法】 産後1ヶ月の母親 (初産婦 166 名、経産婦 200 名) を対象に、横断的方法による質問紙調査を行った。サポート認知尺度 (中島, 2007)、IWM 尺度 (戸田, 1988)、育児肯定感尺度 (島田ら, 2003) を使用し、母親のサポート認知及び IWM が育児肯定感に与える影響を検討するため、重回帰分析においてステップワイズ法を用いた。</p> <p>【結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初産婦・経産婦ともに、育児肯定感の親としての自信は、IWM の安定、アンビバレント、回避のすべてが影響しており、育児肯定感の自己肯定感へは、IWM の安定が影響していた。 2. 初産婦・経産婦の相違において、初産婦では、育児肯定感の産後の生活変化への適応は、IWM のアンビバレントのみが影響を示していたが、経産婦では、安定と回避が影響していた。同様に、育児肯定感の夫のサポートに対する評価は、初産婦では、情緒的サポート認知のみから影響を受けていたが、経産婦では、アンビバレントも負の影響を示していた。 3. 初産婦・経産婦ともに、実質的サポート認知と IWM の回避との有意な負の相関および類似的サポート認知と IWM の安定との有意な相関から、育児肯定感の親としての自信への間接的な影響を示していた。 <p>【考察】 育児に対する肯定的感情は、母親に対する愛情表現をはじめ、育児に対する励ましや育児不安の緩和に繋がるなど、情緒的サポート認知が重要であることが考えられる。また、IWM が安定を示す母親は、育児に対する満足感が発達しやすく、回避を示す母親は、他者に頼らず育児を行う傾向にあり、アンビバレントを示す母親は、育児行動に対する自信に欠けることが考えられる。一方、良好な他者関係を構築して IWM が安定を示す場合、産後の生活変化への適応が良好であり、他者関係が拒否的であると良好なサポートを受けにくく、産後の生活変化への適応も困難な状況にあると考えられる。よって、母親は、サポートを認知することによって、IWM の安定が強化され、育児肯定感が高まることが推測できる。</p> <p>【総括】 本研究の対象集団において、母親のサポート認知および IWM は、育児肯定感へ影響を及ぼし、更に、サポート認知は IWM に影響を及ぼしていた。看護職は、親になる過程にある母親に対し、夫や実母といった重要他者に対して、サポート認知の具体的な内容を示す必要がある。また、妊娠・出産・産褥期の母親は、環境の変化によって、IWM が何らかの変容を及ぼしていたことが考えられるため、その内的変化への支援が重要であると考えられる。従って、看護職においては、母親に対し、育児に関する肯定的感情を促進する要因について十分認識し、母親を取り巻く環境を整え、情緒を支えるケアを提供する必要があることが示唆された。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。